

H26.5.31

# 食道がんと胃がんの早期発見



**長尾和宏 (ながお・かずひろ)**  
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。医学博士。近著「平穀死・10の条件」「胃ろう」という選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。55歳。

今日は、食道がんと胃がんについてのお話です。どちらもありふれたがんで、発見しやすいがんです。胃カメラさえ飲めば早期発見でき、早期治療が可能です。しかし実際に痛みやのどの詰まりなど自覚症状が出てから慌てて病院を受診したらもう末期状態だったとか、手術はもちろんど抗がん剤や放射線治療すぐできず、3カ月後には亡くなつたというケースを何度も何



## 「胃腸」シリーズ⑤

に見えてします。  
「がんができてから亡くなるまでに10年以上はたつているんですよ」と言うと、ご家族はみな驚きます。10年以上も猶予があつたのに、助かるチャンスをみすみす逃していります。

専門医としては実にもつた人があまりに多い。内視鏡

専門医として、食道がんと胃がんのないと思います。

胃がんも食道がんも早期発見が大事です。早期に発見できれば、早期治療は可能です。

食道がんは胃がんに比べてタバコの悪いがんなので、早期に発見しなければ助かりにくい。でも、早期発見で助か

期やバリバリの壮年期の方こそ、検診を受ける意義は大きい

さて、食道がんと胃がんの検診は、可能であれば胃透視

検診では早期の食道がんを見ることは無理とまでは言

われるはずです。そこでタバコとお酒が好きな方、(2)食道がんだけで私は食道がん患者

## 胃内視鏡という強力な武器

つた食道がんの人も何人かい

ます。一方、せっかく早期に胃が

らんが見つかっても放置してい

たがて死に至ります。もちろん、高齢や医療不信などの理由で治療をしないのであれ

ば、はじめから「検査を受けない」という選択肢もあるで

しょう。寝たきりの方には、

そんな検査は普通、勧めません。しかし、働き盛りの中年

は見つかった人だけが助かるのが食道がん。一方、胃がんは食道がんより助かる段階の範囲が広いです。

早期胃がんの大半は、内視鏡治療や腹腔鏡手術で完治します。その早期発見は、胃内視鏡検査を受けるかどうかにかかっています。しかし多くの人は胃内視鏡を怖がります。

過去の内視鏡検査が苦しかった人はトラウマになってしまいます。そんな人のために鼻

からついています。しかし多くの人は胃内視鏡を怖がります。過去の内視鏡検査が苦しかった人はトラウマになってしまいます。そんな人のために鼻

からついています。しかし、そうならない

に、ピロリ除菌で「予防」の時代になつていることは前2回で述べたとおりです。不幸

にして胃がんで手術したあとに抗がん剤治療を提案され、

がん剤が効く人、効かない人」(PHP新書)を書きました。しかし、そうならない

ひよつど